

# 市史広報

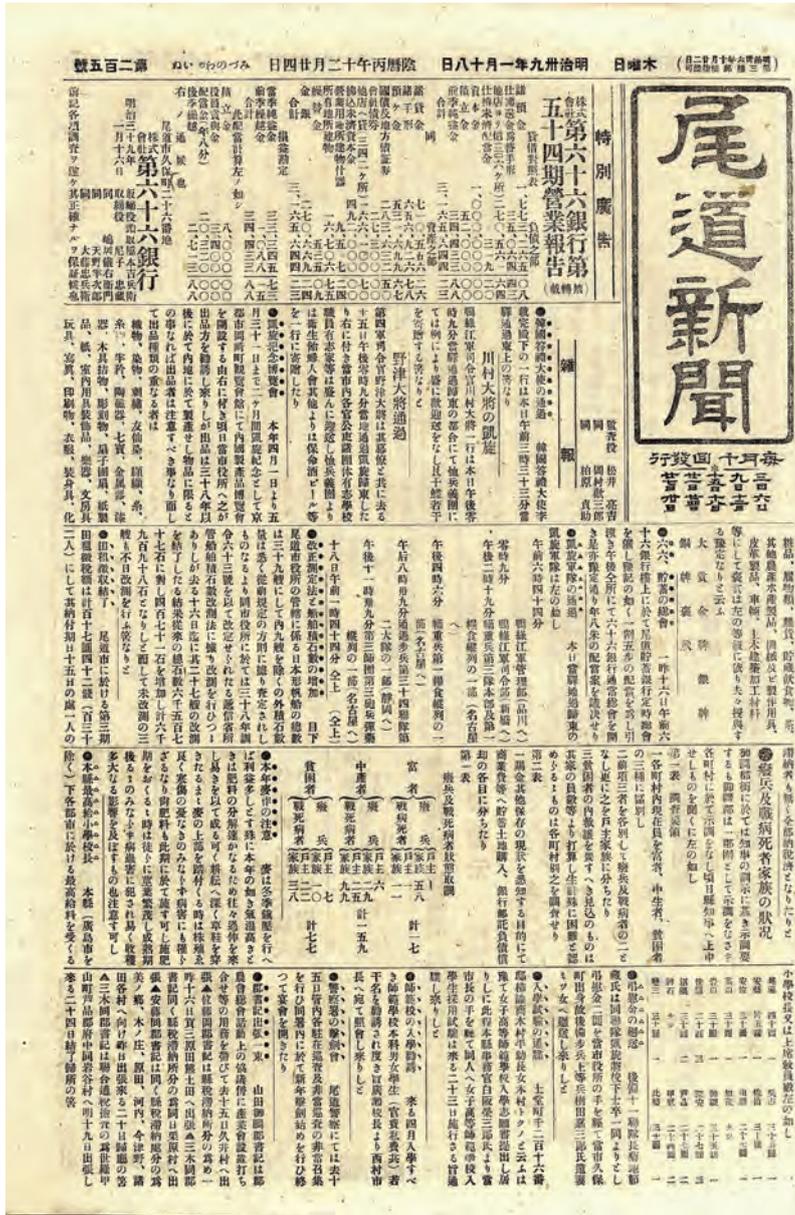
## 第15号

日々の出来事や地域話題を大小に報じる新聞は、過去を振り返り、見返す為の有益な歴史資料・記録資料ともなり得るものです。新尾道市史の編さんにあつても、近代・現代の範囲はもとより、その他の分野においても情報収集で活用されるなど、史資料の中では大きな存在感を放つものとなっています。

### ◆尾道ローカルの新聞史を辿る

商都として古くから栄えて来た尾道では、人とモノの往来も活発にありましたが、情報伝達においても同様でした。それを裏付けるのが地元メディアの存在で、新聞草創期の明治時代から、尾道町内・市内には複数の地元新聞が存在していた事が、今に残る新聞資料から確認されています。

左の「尾道新聞」もその一つになり、他に「尾道實業新聞(後に「山陽朝報」と合併して「尾福日報」に改題)」、「黄陽新報」、「尾道新報」、「備後時事新報」などが、明治の中・後半期に並び立っていたようです。



尾道新聞・明治39年(1906)1月18日付1面。現在発行される「尾道新聞」とは全く無縁だが、同紙名のローカル紙が日露戦争の前後に発行されていた。杉原英男氏蔵。

断片的な情報となる明治を経て、大正時代には統計資料その他から、より正確な情報で地元新聞の存在が把握されます。以下は大正四年(一九一五)四月発行の『尾道案内』、次いで大正十三年(一九二四)四月発行の『尾道商工案内』に記載された地元新聞社の一覧です(大手紙の通信部・支局は除く)。紙名・発行形態・新聞社の所在地と経営者又は主幹。

- ▼備後時事新報 日刊 十四日町 岩本梅太郎
- ▼尾福日報 日刊 十四日町 細間利吉
- ▼尾道商報 週刊 不明 村上健一(主幹)
- ▼吉備公論 旬刊 不明 村上十四三(主幹)
- ▼山陽日報 日刊 十四日町 中山領市
- ▼尾道新聞 日刊 不明 秋田熊次郎

大正末には『尾道新聞』が『山陽日報』を吸収して、『山陽日日新聞』へと改題されて昭和へと続きます。

戦局が悪化の一途を辿る昭和十九年(一九四四)には、一県一紙統制により広島県内では『中国新聞』一紙となり、尾道発のローカル紙は戦争余波の強制廃刊で姿を消します。

戦後に一早く復刊を果たしたのが『山陽日日新聞』で、進駐軍から特別に紙の供給を得て、昭和二十一年(一九四六)一月から『山陽新聞』の名で、火木土の週三回発行されました(昭和二十三年三月より日刊に戻り山陽日日新聞へ復す)。

戦後は『三都新聞』、『備南合同新聞』(後に『瀬戸内海新聞』へ改題)、『大朝日日新聞』、『暁新報』と、ローカル紙が相次いで創刊されますが、一地方都市にあつて、これほど稀有な例と言えます。



写真複製書より千光寺山の尾道放送局

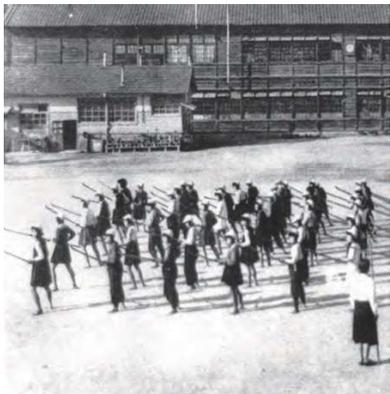
尾道放送局設置敷地たる土堂町千光寺公園(七百  
余坪)の地均しは十七日ころから着工するが同所の  
開墾は市内男女青年団その他団体の勤勞奉仕によつ  
て行い、工事(石垣コンクリその他特別の技量を要す  
ものは公入札とし)予算三千九百円)十月十日まで  
には敷地竣工、放送局に寄附する、放送局では直に  
上層建築に着手するので本年度末までには一切の工  
事が落成するので明年からは感度の悪いラヂオは解  
消することになる。〔芸備日日新聞 昭和十三年(一  
九三〇)八月十日付〕

### ◆尾道放送局地ならし工事 青年団等勤勞奉仕

【解説】千光寺山の山頂現在の市立美術館の位置  
に、NHK尾道放送局(JODP)が開設されたのは  
昭和十六年(一九四一)の事で、同年の二月十八日か  
ら、コールサイン「JODP」で放送を開始。昭和四  
十二年(一九六七)に福山へ移転すると尾道局は閉鎖  
された。シンボリックな二基の鉄塔は高さ五十五mで、  
四十二年度中にこちらも姿を消した。

尾道市の総合防空訓練は必勝態勢下の決意も固く、  
市民挙つての防空鉄壁の堅陣ぶりを発揮せんと、二  
十五日午前八時空襲警報の発令とともに実戦さな  
がらの猛演習を展開。各町内会隣保班員の活動は焼  
夷弾、爆弾の投下想定のもとに投下弾の処置、避難  
からのボンブ、梯子、バケツの操法、負傷者の救護な  
どと見事な日頃の訓練ぶりを発揮し、また協同精  
神の発露ともいふべき成果をおさめ、また敵の攻撃  
目標となる重要工場、公営署、駅、港湾などのほか高  
層建築物を中心としては各自衛隊、警防団の協力の  
もとに一糸乱れぬ消防防火、救護など見事なもの中  
天に水柱林立して、堂々たる鉄桶陣の威容を示せば  
婦女隊は救護班に涙ぐましい活動をつづけ、銃後女  
性の真価を遺憾なく発揮したが、なかに尾道港で  
の本丸焼夷弾命中中の仮想された訓練は乗客避難  
消火など水上軍の活躍が目覚ましく岸と海との協  
力でもっとも凄絶な場面を展開したが最近に見ら  
れぬ一同の気魄が、進り実戦即応の防空訓練は二六  
日午後六時空襲解除とともに好成績裡に終了した  
訓練終了に当り六戸尾道署長は次のような講評を  
行った。

### ◆避難救護等完璧 尾道の防空演習終了



薙刀訓練をする長江国民学校(長江小)児童。昭和18年撮影

【解説】尾道旧市街(中心市街地)での大掛かりな  
防空演習の様子が報じられる。結果として尾道町内  
(旧市街地)への空襲被害は見られなかったが、因島  
では日立造船を目標とした空襲を受け、百人を超え  
る犠牲者を出している。その他、原田町と久保町(番  
所跡付近)への単発による爆弾投下も確認され、この  
内原田町への爆弾投下は、広島県内では最初の空襲  
として記録される。戦争被害では、戦争末期の強制  
建物疎開も忘れてはならない、戦争の記憶である。

形的な悪条件のもとに行つたが、好成績であった訓  
練に熱心のみならず負傷者もあつたが、なんとか□□  
の方法を講じたと思ふ、一般には習得した技術を  
活かすとともに常に機械器械の□□点検を怠らず、形式  
的な訓練でなく実戦即応の訓練を実施し一層成果  
をあげられんことを希望する。〔中国新聞 昭和十  
七年(一九四二)九月二十八日付〕

本文中で、文字が濃れているなどの判断不能箇所については、□で記載しています。

### ◆尾道町を市制地たらしめんとす

備後国尾道町は商業地としては中国の要路に当り  
百貨陸上に幅輻し帆橋湾内に林立す而して軌近益  
々殷盛を致し其地域を拡張せしのみならず総ての  
機関を具備し今や其経費は御調部の他の町村を合  
併したる経費を超過するの巨額に上り是より先  
き町民は町を以て市制地たらしめんと熱望  
したるも戸数の点に於て聊か規定の数に不足せる  
り之を抑えて今日に至りに近年戸数其他一般の状  
況幾んど同一なる栃木県宇都宮町を市制地と改め  
られしより一層其熱度が高め茲に其宿志を達するも  
敢て難きに非ざる事を知り乃ち町長横山亮一氏を  
特に宇都宮に派し実地に就き調査を遂げしめ尚内  
務省に就て打合せ處あらしめたり而して横山氏は  
過般既に帰尾し町会議員其他の有志者に談じ且郡  
衙にも交渉せしに何れも異議なかりしより四五日  
前都役所樓上に有志相談会を開き彌々請願書を其  
筋に差出す事となりぬとぞ。〔芸備日日新聞 明治  
三十年(一九一七)三月十三日付〕

【解説】尾道市が市制施行する前年、戸数など規  
模的に近い栃木県の宇都宮町(現宇都宮市)が市制  
施行を実現できた事を受けて、尾道町長・横山亮一  
氏を宇都宮に派遣して実地調査をし、それを経て内  
務省と協議した事が報じられる。後段では既に横山  
町長は尾道へ戻つており、町会議員や地元有志とも  
話し合い、御調部役所とも交渉の結果、異議なしと  
いう事で、近日中には市制施行の請願書が提出され  
るとしている。

### ◆汽船競争愈々猛烈を極め終に二銭に値下げす

尾道港を基点として各地に航海する巡航船が相合  
同して中国汽船株式会社を組織して以来各船とも  
競争を始め船舶の増加又は運賃の値下げ等にて乗  
客を奪い合い其競争は漸次猛烈となつて居たが最近  
に至つて尾道今治間及び尾道御手洗間を航行する  
中国汽船船谷丸、北川丸大長汽船第一第二、大長丸の  
競争は益々激烈となつて最初木之江港が両者とも  
運賃を五銭に値下げして反対の火蓋を切り、続いて  
忠海港が二十銭から十銭に値下げした為各港に影  
響せし結果中国汽船では去る十九日から尾道今治  
間各港行き運賃を五銭均一に値下げする事を発  
表するや大長汽船でも直に同日から各港を二銭均一  
に値下げして徹底的競争する事となつたがそれがた  
め一年中で最も乗客の少ない今日でも毎日各港共に  
乗客激増して各船とも乗客満員の有様であるが此  
の競争は当分継続する模様で今後の競争は一層猛烈  
を極め来るであろう其の結果は運賃無料場合に依つ  
ては其上相当の優遇を図る様な事になるかも知れぬ  
形勢であるが中には取扱店の資力脆弱なるものもあ  
り何れ一騒動を持ち揚ぐ可く目下の形勢では何れの  
会社が倒れれば止むまじき意気込であるというが  
何れにしても損の分取りで馬鹿げた競争である或は  
有力な調停者が飛び出すかも知れぬとのこと(忠海  
通信) 〔芸備日日新聞 大正十年(一九二一)七月二  
十一日付〕

【解説】尾道一今治間、尾道一御手洗間を航行す  
る旅客船間で、乗客を奪い合う熾烈な競争が更に深  
まった事を報じる。運賃値下げは止まる事を知らず、  
挙句の果てには無料となるやも?という形勢で、ど  
ちらかが倒れるまで収束しないのではないかと、馬  
鹿げた競争だと記者も呆れかえっている様子。

### ◆帝都動物園 尾道へ興行

三日から尾道市久保町海徳寺跡で帝都動物園が毎  
日午前九時から開園する事となり設備整つているが  
同園の呼び物はゴリラ、狸、羊、三十三尺の大蛇等  
で高我国に初めて渡来した金毛虎、コアイチマンダ  
ラ等珍し物多く白頭狸等頗る珍動物揃いで観覧  
料は大人二十銭小人十銭、学生は団体見学の望みに  
応ずると。〔芸備日日新聞 昭和二年(一九二七)十  
二月四日付〕

【解説】久保町の海徳寺跡地に、動物園の出張興行  
がやつて来ると報じる記事で、帝都動物園は東京の  
上野動物園だろわか。呼び物にある「狸々排」とはオ  
ランウータンと見られる。10m近くもあるという大  
蛇とは巨大なニシキヘビかもしれない。「コアイチマ  
ンダラ」は不明ながら、マンガズはどこかマンガス  
を想起させる。時宗海徳寺は、浄土寺山中腹、旧簡湯  
小学校の裏手に立地するが、その昔は旧防地川の河  
口、現在の久保三丁目の備二タクシー営業所の周辺  
に建てられていた。それが大正末に全焼した為に現  
在地へ移つた経過、動物園の興行は更地となつたその  
跡地で行われた訳だが、焼失以前から境内では相撲  
や芝居の興行で賑わつていたと伝える。

読みづらい戦前の記事については、一部において常用漢字、現代かな遣いに変えるなどしています。

◆尾道ミナトに海上ホテル

尾道ミナトに海上ホテルを浮かべようという話... 尾道ミナトに海上ホテルを浮かべようという話... 尾道ミナトに海上ホテルを浮かべようという話...

【解説】終戦から一年未滿の頃、尾道水道に水上ホテルを、それもお払い箱となつた軍艦を用いた船の

戦後の公選市長では初代になる石原善三郎氏で、本四架橋をいち早く提唱した市長としても知られる...

◆戦後最高の人出

観光博人氣高潮の十一日の日曜日は花を惜しむ行列客が堰を切つたようにつめかけ、尾道駅では乗降客七万七千五百名、旅客収入百九十五万五千円...

昭和二十九年(一九五四)四月十三日付

【解説】千光寺公園を会場に開かれた「瀬戸内海観光博覧会(通称・尾道博)は、昭和二十九年(一九五四)四月一日〜五月二十日までの会期で開かれ、サブ会場として中腹の旧公園には、遊園地にミニ動物園を併設した子供園が開園した。

◆尾道は中尉だね 山下清さんと記者会見

あすから開かれる展覧会を前に実弟山下辰雄氏(二六)とともに放浪の画家山下清さんは、松江市からきまよ、二十四日午前八時五十六分尾道駅着の列車で来尾、尾道市教育委員会室を訪れ、高橋教育長、新聞記者らに囲まれて次の通り朗らかに語つた。

◆試算29億円の駅前再開発計画

(前半略)試算では総事業費二九四億円。保留床一七億円の六七%。延床面積は六万九〇〇〇平方... 平成七年度にすべてを完成させるプラン。

再開発の特徴は(1)国道二号線を海岸を通らせ区域を四車線にする(2)このため現駅前に至る二号线を歩行者天国とし(3)現広場を西へ移し(4)中心部にデパートを誘致する八階建てビル、十二階建てホテル、十七階建マンションビル(高さ五二層)、五二〇台分の駐車場をつくる。

中央部分にデパートを

JR関係用地六五〇〇平方メートルをふくめる駅前再開発は権利者七十人。土地所有一八人、建物所有二九人、借家人二三人。重複を除くと土地所有二三人、家屋所有二三人、借家人二人。



同記事に掲載された駅前再開発のイメージ図

四〇〇平方メートル、延べ床約六万九〇〇〇平方メートル。駅前広場西の商業施設にはデパート、専門店、飲食店街。八階建。その北にホテル十二階、北西にマンションビル、十七階五六戸、高さ五二層、地下駐車場。山陽線北とむすぶ空中回路として歩行者道路を区域内につくる。



ロープウェイ山頂駅付近でスケッチする山下清(尾道市蔵)

尾道市には昭和二十八年十月ごろだったと記憶するが立寄つた。寒さに向うので着物を探したが見あたらなないので五、六百元(和服中古品か)で買って尾道駅で休み鹿兒島市に向かったことはおぼろげに記憶している。食物の好物はオデン(野サイ)がすきだがお酒は少し位です。尾道市は海からの景色がよいので向島へも写生に期間中行つてみた。

付

【解説】尾道市教育委員会事務局内景美展尾道会場運営委員会主催で同年十月二十五日から一週間、久保小学校講堂を会場に山下清の作品二百数十点が並べられる展覧会兼即売会が開催された。

◆祇園祭三休みこしが復活 青年会議所が奮起

「夏祭りのビックイイベント三休神輿が戻つてくる」... 尾道市制八十周年を機にふるさとの伝統行事を復活させようと尾道青年会議所(粕原重成理事長)が祇園祭で子供たちの胸を轟かせた勇壮な神輿渡御を若者の手で披露する。

計画によると、港まつりが展開される来月三日午前十時土堂二丁目、伊予銀行尾道支店前から久保二丁目防地口まで久保八幡神社に奉納されて、神輿を練り歩かせ、午後四時から土堂二丁目住吉神社前で三休のかけ合いを威勢よく再現する。

また同所を中心に海上ゲーム、自動車ふちめぎ、電話ボックス人間詰め、Tシャツコンテスト、屋台街をつくり次代の尾道を背負う心意気を示す。

三休みこしは交通事情の悪化などから十年ほど前からお旅所まで台車で運ぶなど昔ながらの祭気分には水をさし、このためJICが本来の姿をみせてやろうと奮起したもので、行幸に先立ち十六日午前十時半から久保八幡神社(八坂神社を兼務で管理する宮)で神輿の掃除と担ぐための予行演習を行うことになっており、会員以外の参加も望んでいる。「山陽日日新聞 昭和五十三年(一九七八)四月十四日付」

【解説】夏祭りの尾道祇園祭で担ぎ出される三休神輿は昭和五十三年の尾道みなと祭での尾道青年会議所発の企画で復活を遂げ、その夏の祇園祭から豪快なる三休廻しの勇姿も盛り、以降尾道を代表する夏祭りの一つとして今に受け継がれている。本年には尾道市民俗文化財にも指定された。

## 歴史ある地域紙の灯を繋ぐ

(二頁の尾道新聞史のその後…)尾道発の地域紙―その戦後を見ていくと、昭和二十一年(一九四六)一月に、「山陽日日新聞」がいち早く復刊(復刊当初は「山陽新聞」の紙名)、次いで二十六年(一九五二)に「三都新聞」が創刊、三十四年(一九五九)には「備南合同新聞」(三十九年より「瀬戸内海新聞」に改題)創刊、五十一年(一九七六)からは尾道市長を務めた石原善三郎氏が「大朝日日新聞」を創刊と、一時期にはこの四紙が尾道の内で並び立った(他に「暁新報」あり)。



廃刊した「山陽日日新聞」(右)と、その3ヵ月後に創刊した「尾道新聞」(左)

一地方都市でこれだけの地元ローカル新聞が発行されているのは、全国的に見てもかなり特異な例として着目されるところで、戦前の近代も含めて、尾道のメディア史については深く掘り下げ、じっくりとアプローチをしてみたいものが多分にある。

中近世の寺社林立と同様に、スケールの程は違えども、日刊四紙時代は尾道の経済力・都市力を世に見せつける光景でもあった。しかし昭和の終りに「瀬戸内海新聞」、平成に入って「大朝日日新聞」、「三都新聞」が消え(廃刊・休刊)、源流は明治の市制施行の年にまで遡る「山陽日日新聞」(サンニチの愛称で親しまれた)一紙のみが残り、か細くなった地域紙の歴史を何とか繋いで来た。

その最後の一紙も、平成が終わりを迎えようとしている時―平成三十年(二〇一八)の十月一日付を以て静かにピリオドを打ち、ここに歴史ある尾道の地域紙は完全に消失する事となった。

尾道の中で無くてはならない存在として、この地域紙を愛し、親しんできた多くの市民から、地域紙再興を望む声がサンニチ廃刊直後から沸き起こり、それに応えるべく地元経済界が立ち上がって新たに創刊されたのが日刊紙の「尾道新聞」になる。

サンニチ廃刊から僅か三ヵ月の空白を経て、再び地域紙の灯がともり、繋がれて行く事になった経過も誠に稀有な例であり、全国的にも新聞の購読数が減り続け、町の本屋さんに同じく厳しい環境下だけに、これは奇跡的な出来事と言ってもいい。

そうした経過についても、日々紡がれゆく長い尾道市史の中に、刻み込まれるべき輝きを放っている。

### 『新尾道市史』全11巻ラインナップ

- ① 文化財編 上巻 ≡ 販売中・二七〇〇円 ≡
- ② 資料編 近世 ≡ 販売中・三〇〇〇円 ≡
- ③ 文化財編 下巻
- ④ 資料編 考古・古代・中世
- ⑤ 民俗編
- ⑥ 資料編 近代・現代
- ⑦ 地理編
- ⑧ 通史編 原始・古代・中世
- ⑨ 通史編 近世
- ⑩ 通史編 近代
- ⑪ 通史編 現代

市制施行一二〇周年にあたる平成三十年度(二〇一八)をふりだしに、令和十年度(二〇二八)までの十一年計画で、新市域を網羅した新市史を随時刊行して参ります。

### 尾道に関する資料求む!

尾道に関する文書(文字資料)、写真、映像、地図、尾道的话题を報じる新聞・雑誌、尾道関係の図書など、市史編さん委員会事務局及び文化振興課では、幅広い分野にまたがり、史資料の収集に努めています。他に地域に伝わる言い伝え(昔話)や風習、祭礼、芸能など、無形のものも対象となります。資料・情報の提供については下記連絡先の何れかより対応致しております。お電話での受付は平日8:30~17:15。電話:0848-20-7425(文化振興課)。